

研推報告

平成15年7月7日

今年度、最初の主事研が終わりました。子ども達の生き生きとした姿、教師の支援のあり方など、大変勉強になりました。

研究会

複式授業の指導方法より

視点1 教材のあり方

(1) 教材配列の工夫

課題をどれだけ意欲的なものにできるか。2つの内容を同時に行うため、魅力的な課題を常に作り続けることが難しい。

視点2 学習課程の工夫

その1 学習の流れの定着

課題をつくる過程が大変自然であった。

黒板の下に授業の流れが書いてあり、子どもがそれを頼りにして取り組んでいた。

教師がずっとつけない以上、教科係を支えるものが必要である。

評価カードによって振り返りができていた。

基本

課題つかみ 一人学び 仲間学び まとめ

ホワイトボードは、児童の表現を支えるものとしては有効である。

5年生は、6年生の学び方を学べるというのが最大のメリット。交流の仕方も上の学年から学んでいっていた。

基本パターンを大切にその時の子どもの様子や単元等によってアレンジしていくことが必要である。

その2 間接指導の充実

考えなどで光る姿があっても片方の学年についているために認めてやれないことがあった。

その3 教師の役割と動き

黒板が真ん中にあるために、教師の移動がすくなり、子どもに対し、すぐ対応ができていた。

背中合わせになっていると良いようにみえるが、子どもも気になってしまう。

背面黒板を効果的に使用していた。

教科の視点から

視点 基礎・基本の明確化

学び方について、岩滝小として、統一した基準をもてると良い。

ノートの使い方や定規の指導等。

ドリルの使い方。間違えた問題をチェックしていく。わかる問題とわからない問題をチェックできるというのはすごいことである。

主事先生からのご指導

一人学びや仲間学びについては、どの学校でも苦労されている。

複式に関わる個の学び

6年生の学びに力強さを感じた。

それぞれホワイトボードを活用しての姿が良かった。特にまとめの姿がすばらしかった。あれだけきちんとまとめることができる。単式の学級でも算数の言葉でまとめきれない生徒はいない。単式のクラスに紛れていて、授業をしたらいかにも学級全体が考えたようになるという授業がイメージできる。あの子たち一人一人が10人分くらいの力を持っている。算数の学び方を知っている子たちである。

算数の授業の流れ

算数の授業は、課題を解いて、課題に対するまとめをする。その後、練習問題を解いてみて、本当に使えるな、これが一番いいなと実感して初めて基礎・基本が定着したといえる。練習の場面を通さないとだめ。

児童の光る言葉

「三人で三通りの考え方ができるといいね。」

「どのやり方のどれでもいいの。」

これらの発言は、「算数の考え方」において非常に大事である。

いい所と改善点

複式の個と集団の学習のあり方をめぐって

5点

その1

複式という特殊な体型の中でどう学ぶか。学習の流し方。

算数ならば、複式でなくても求める学び方。

問題とねらいを明確にする4つのキーワード。

はやい、かんたん、わかりやすい、いつでもできる。

このどれかを算数ではいつでも求めている。

6年生の授業では「はやい」

わかってやるのと自発的にやるのとでは違う。

国語では何を大切にしていけるのか。どんな考え方や学び方をしなければならないのか。教科の究極の目標はなにか。どんな考え方で何を学ぶのか。等を大切にしていけると黒板の下に張ってあった授業の流れがもっと生きてくるだろう。

その2

算数に関わって、考えを進めるときのアイテム(武器)を明確に持たせてやることが大切(特に低学年)例えば線分図、リットル図など。使えるものを明確に見せる。

例えば5年生の授業では

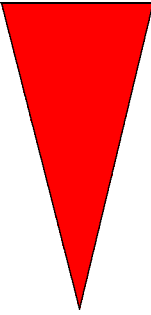
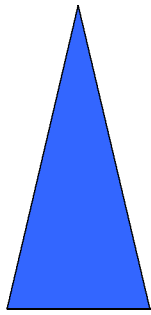
分度器、三角形の内角の和、切ったり張ったりする。ということがあるがそれが全て出ていて良い。前の授業で獲得したものをわかりやすく出してしまっておかないとそれを使いこなすことができない。今の授業で言えばうしろの黒板にはるとよい。「わからなくなったら後ろを見て考えなさいよ。」という言葉かけですむ。そういった丁寧な学習環境を作り出す。そして学年ごとに持ち上がっていけばよい。そうすれば新たに作らなくて良い。

その3

ずらしとか、教師が直接指導をしないために、プリント。6年生のプリントほかのやり方はないだろうか。5年生のは、四角形が書いてあるだけである。そのプリントを見て、これは5年生にれつかるのだなと感じた。プリントの内容は、自分たちで課題を見つけ出せるというようにするのであれば丁寧に作らねばならないが、教師がついて課題化をされる

のであれば片方は素材でよい。プリントで課題化をしていくと言うところは丁寧に作成する必要がある。

本時授業のイメージ

教師の出場	5年生	6年生	プリントの可能性 この流れに沿うようなプリントを作り出していくと良い。 また、ずらしの時間に武器の確認をさせるいうのも一つの手である。ただし、昨日の学習でつかんだもの確認する。授業内容の確認ではない。
			
授業の重点			

その4

先生のわたり

途中の一人学びの時に絶対ノートを消させない。思考の跡が残るノートを作り出していく。

ただし、人数が少ないので、ノートにしっかり書かせて互いに見させてもいいのではないか。ノートで頭をつきあわせて交流するのもよい。

だから、黒板には課題とまとめしか残っていないという授業もあり得る。

その5

低学年、中学年、高学年での学び方。教科を貫いて学んでいくもの。岩滝小として大切にすることが明らかになっていくと良い。

算数的な部分での指導

単元指導計画。課題を細かく。単元指導計画4観点を全て評価することは難しい。その中で一つに絞り込んでしまう。評価基準の絞り込み。どの場で評価するか。この二つの点を詳しく書く。

どの場で評価するかは、複式なので難しいがイメージをしてあるとよい。

少人数指導について

課題化とまとめについては、教師は責任を持って見届けなくてはならない。
二つの学年を持っているという点からすると大変難しいのだが。
子ども同士での教え合いをもっと強化するとよい。

岩滝小のシステムの確立を

教師の支援をいつまでも待っていてはいけない。子どもにたくましさ、わからないことを隣の友達に聞くというような。手をさしのべるだけでなく、立ち向かわせるという支援が必要。

自分の考えを持つのが一人学びになれば、わからなかったらどうするのかをもとめるのが、仲間学びである。

そういった岩滝小のシステムを教えてやるのが大切。

評価カードについて

一人学び、仲間学びは、岩滝小が授業でもとめるものが明らかになると評価の視点も決まってくる。

進んで取り組む。今日のカード。全ての教科に使える。複式の中での学習過程に対応するものになっていくと良い。

一人学びをもとめているのなら、絶対必要。子どもたちの自己責任である。